

科目担当者氏名		科目担当者連絡先（メールアドレス）	
泉桂子		izumi-k@iwate-pu.ac.jp	
連絡責任者氏名		科目設置機関名	
平井 勇介		岩手県立大学 総合政策学部 総合政策学科	
授業科目名	科目認定番号	受講者数	
地域調査実習III	IWKa-151003-0	13人	

### Ⅰ. 調査実習に関するコメント

学生が果たした役割や実習全般に対する感想など：

事前学習、統計データの整理、調査票の作成、聞き取り調査の実施、その記録、報告資料の作成は学生が担当した。実習を通して、社会調査の経験を積むことができました。その中でも、聞き取り調査を行う上で調査先の下調べや基礎知識を身に着けるための事前調査などの必要性を実感しました。この1年の実習で学んだことを、今後の卒業研究の際に活かしていきたいと思います。調査をしていく中で、FSCについての知見を深めることはもちろんのこと、人との接し方など、形に残らない部分の大切さを改めて学ぶことができました。社会的にもっと認知されても良い事例だということ強く感じたので、今回の研究が今後の研究に生かされればと思います。新たな問題意識を得ることができた。森林管理が不十分であることに加え、岩手県のそれに対する意識はまだ低い。地域や事業者によって意識は異なるが、県と事業者との間に大きなギャップがあると感じた。

初めは勝手がわからず、ぎこちない調査になってしまっていたが、徐々にコツをつかめたような気がした。今回の調査を卒論につなげていきたい。調査テーマであったFSC認証に対して調査を通じて理解することができた。自分たちで調査結果から得られたデータをうまく分析できたと思う。

岩手県はFSCに対して、先進的であり、豊かな森林資源をもっている素晴らしい県だと思いました。現場で働いている人の声を聞くことで、文献調査では見えてこなかったことが、わかってきました。また、実習の内容以外の部分でも、メモ起しの仕方や、小見出しのつけ方など今後の卒業論文作成に必要な力も身につけることができたと思います。実習はみんなで協力して一つのものを作るという点で、一番思い出深い授業でした。

実習を通し、FSC森林認証についてより理解が深まったこと、社会調査のノウハウを学ぶことができた点に関し有意義であった。森林認証についてはその問題点や今後必要な課題が浮き彫りになった。また社会調査の中でヒアリング調査を実際に行うことによってそのノウハウについて学び、注意すべき点などを実践的なことに関しても学ぶことができた。

今回の実習では、環境問題でも森林破壊についての新たな知見が得られ、大変有意義なものとなった。今後も関心を抱き続けたい。FSC森林認証の知識がゼロの状態から始めましたが、今では多くの知見を広げることができました。一応、無事に調査、発表を終えることができて良かったと思います。実習を通して、自分の卒論に活かす事のできる技術を多く学ぶことができました。聞き取り調査、パワーポイントの作り方、プレゼンの仕方等、まだまだ至らないところばかりなので、これからこの実習を思い出して技術を磨いていきたいです。

自分が今まで（実習以外で）作成してきたレポートや資料はどれも自分のためのものばかりで、グループのために資料を作るというのは初めての作業でした。また誰かが作った資料を基に自分が作業するというのも初めてのことで、資料作成に不備があったり、判りづらいものを作られると自分や相手が困ってしまう、そういったことを全員で体験できたことがこの実習の中で一番大切なことだと思いました。

実習を通し、岩手県におけるFSC森林認証の現状を学ぶことができたと共に、聞き取り調査を2度も経験でき、今後の卒業研究につながる良い経験になったと思う。調査を行う際に大切なことは、調査に向けた準備を計画的に進めることだと感じた。質問項目をよく考えたり、事前学習を十分に行ったりすることで、より質の高い調査ができるのだと感じた。

今回はモノだけでなく、多くの人にもお世話になった。多くの方々のおかげで調査ができたことに感謝し、調査からまとめる作業までの、この一連の経験を今後に生かしていきたい。

実習を終えて、岩手県における「FSC森林認証」について学ぶことができ、大変有意義だった。聞き取り調査では、話していただいたことからさらに深く話を掘り下げて聴くことに努力した。そのための準備がテープ起こしに役立つなど、貴重な経験を得ることができた。また、このように調査できるのも多くの方の協力あってこそだと再認識した。

、森林県岩手であるにもかかわらず、森林認証制度普及活動が停滞していること、意識の差があることなどの問題点が浮き彫りとなり、“本音と建前”が見え隠れしている現実など今後の新たな研究課題は多い。

### Ⅱ. 調査の企画・設計（デザイン）

1. 調査のテーマ／領域：

FSC森林認証と地域社会

2. 調査の内容／概要：

盛岡市内印刷業者および岩泉町内の森林・林業関係者に対してFSCについての聞き取り調査を行った。

3. 調査の範囲／対象（量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入）：  
調査対象は、岩手県農林水産部森林整備課、P印刷株式会社、川口印刷工業株式会社、Q森林組合、(株)杜陵印刷、岩泉町農林水産課、R、新北菱林産(株)岩泉工場、岩泉町森林組合、(株)西倉工務店である。なお、Q森林組合を聞き取り対象としたのは以下の理由による。調査開始当初、筆者らは岩手県森林組合連合会（以下、県森連とする）に県森連としてのFSC森林認証への取り組み状況、考えを聞き取る予定であったが、県森連より当森林組合を勧められたためである。

聞き取り対象者はいずれも、現在あるいは過去の一時期にFSC森林(FM)認証（あるいは同COC認証）を取得している。調査対象選定にあたっては岩手県の「森林認証とは」(<http://www.pref.iwate.jp/ringyou/seibi/ninshou/004012.html>)のウェブサイトを参照した。まず、盛岡市内の印刷業者は、前年度に行ったFSC製品店舗調査の結果から、紙製品のFSC製品が比較的多く、消費者にとって身近な存在であることが明らかとなったため、調査対象とした。2に、岩泉町は岩手県内自治体の中でも住田町とともにいち早くFSC森林認証を取得し、現在まで認証を継続しているため、調査対象地域とした。岩泉町は特に、広葉樹のFSC認証を行っており、全国的にも特徴ある認証取得事例として知られているからである。

4. 主な調査項目：

内容は認証取得の動機、認証を取得が経営与えた影響、自社での認証製品の使用状況である。

### III. データ収集の方法と結果

5. データ収集（現地調査）の方法：

事前に質問票を送付して、聞き取りを行った。

6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数：

平成27年4月28日(火)10:00～10:50 場所:岩手県庁 調査員3名 平成27年5月18日(月)10:00～11:50  
場所:川口印刷工業株式会社本社 調査員3名 平成27年5月29日(金)13:00～14:00 場所:杜陵印刷 調査員4名  
平成27年7月6日(月)9:00すぎ～14:15 場所:岩泉町役場ほか 調査員14名 平成27年7月6日(月)14:30～15:30  
場所:新北菱林産岩泉工場 調査員4名 平成27年7月6日(月)14:40～15:40 場所:岩泉町森林組合 調査員4名  
平成27年7月6日(月)14:50～16:00 場所:株式会社 西倉工務店調査員3名  
(企業秘密から公表できない調査先は上記に掲げない)

7. 収集したデータの量と質への評価（量的調査の場合は有効回収票及び回収率を必ず記入）：

テープ起こしを行い、不十分な箇所は実習学生および教員により、確認と補足を行った。実習のため一部不十分なデータがあったが、県内のFSC認証の普及状況とその課題が明らかとなった。

### IV. データ分析の方法と結果

8. データ分析／解釈の方法：

定性コーディング後、KJ法によりまとめを行い、実習発表会で教員・学生相互の意見交換を行った。

9. 調査の成果（調査から得られた主な知見など）：

計10箇所の聞き取り調査の結果、FSC認証を取得している9つの事業所のうち、8事業所が認証継続の意向を持ち、1事業所が取りやめの意向を明らかにした。認証取得の動機は顧客・親会社からの要望(3:以下かつこ内は聞き取りで指摘のあった事例数、複数回答)、取引先・自治体との関係維持(3)、CSRの一環(2)、経営トップの判断(3)、行政の新規需要への期待、他団体でのFM認証時審査の経験などである。認証取得による経営上のプラスの影響として、経済的な効果はない(岩泉町、R、新北菱林産、岩泉町森林組合)、あっても認証費用をまかなえない(川口印刷、杜陵印刷)とする事業者が大半であった。上乘せ価格での買い取り(Q)、遠隔地の認証材住宅への製材品納入(西倉)、1億円以上の安定した需要やFSC紙を求める顧客の存在(P)を述べる認証取得者も存在した。FSCが「ボンド」「呼び水」との言葉(岩泉町、Q)に見られるように、FSC取得が外部団体とのパートナーシップ構築に役立っているとする認証取得者が2者あった。社内の整理や緊張感の維持、大企業・外部へのアピールの効果も挙げられた。認証に際して生じるコストはCOC認証の年次審査に30-50万円かかっているとの事例が大半であった。このほかにFSC認証取得のためのマニュアル整備、認証材の分別、認証制度変更時の対応など数々の手間があることが指摘された。自らの認証製品使用状況は、紙製品としてもっとも積極的な岩泉町で町発行の印刷物、そのほか印刷会社を中心に名刺、カレンダー、ダイアリー、リーフレット、コピー用紙の使用が見られ、紙製品の使用が多かった。一部イスやゴミ箱、仕切りなどの木材製品を使用している事業所もあった。

行政に期待する支援として、入札条件へのFSCの付与を求める声もあった。そのためにはまずCOC認証を取得する事業者が増えなければならないとの課題も明らかになった。また、県が「いわて森林認証連絡会議」の活動を休止していることに対し、会議の再開を望む声が多かった。

10. 報告書刊行の予定と概要：

第128回日本森林学会大会、および2016年度東日本林業経済学会で発表予定である。